

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

このたびは、角型洗面器をお買い求めいただき、
まことにありがとうございました。

安全上のご注意

施工・使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、
正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」を示します。
禁止 してはいけない「禁止」を示します。
注意 気をつけていただきたい「注意」を示します。

施工上のご注意

必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> 洗面・手洗器の外周には必ずシリコンコーキング等のシール材(防カビタイプ)を塗布してください。漏水により家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。 洗面・手洗器は平らなカウンターに設置してください。破損および故障の恐れがあります。
禁止	<ul style="list-style-type: none"> 洗面・手洗器に日光や照明が直接当たる場所には設置しないでください。 施工される際、洗面・手洗器に物をのせたり、強い衝撃(ものを落とす、たたくなど)を与えたりしないでください。破損および故障の恐れがあります。
注意	<ul style="list-style-type: none"> カウンターが洗面・手洗器の重量を考慮した構造であるかご確認ください。 本品と合わせて使用する水栓金具は、必ず止水栓(流量調整のできる器具)を取付けた配管に設置してください。 施工後の確認を必ず行ってください。 施工完了後、お客様が使用されるまでの間、洗面・手洗器の表面にキズや汚れがつかないように、梱包のエアーマット等で保護してください。

使用上のご注意

禁止	<ul style="list-style-type: none"> 洗面・手洗器に物をのせたり、強い衝撃(ものを落とす、たたくなど)を与えたりしないでください。破損および故障の恐れがあります。 洗面・手洗器に日光や照明が直接当たる場所には設置しないでください。 金属たわしやクレンザー・磨き粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系の洗剤、ベンジン、油等は、表面を傷めますので使用しないでください。 洗面・手洗器に熱湯や油、シンナーなどの溶剤を流さないでください。破損や故障、漏水により家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。 金属類(ヘアピン、カミソリの刃等)を放置しないでください。サビが付着して取れなくなる場合があります。 洗面・手洗器にひびが入った状態で使用しないでください。破損したり、破損部でケガをする恐れがあります。 排水栓を外した状態で、洗濯したりペットを洗ったりしないでください。毛等がポップアップの機能部に絡まり、故障の原因となります。
注意	<p>汚れを長く放置すると表面に汚れがしみ込むことがあります。こまめに水拭きをしてお手入れをしてください。</p>

製品同梱明細

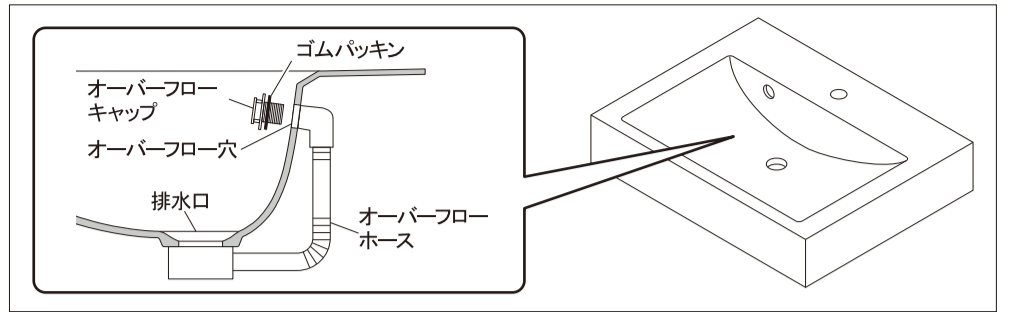
施工される際は、下記の部材があることをご確認ください。

共通部材			
角型洗面器	オーバーフローキャップ	オーバーフローホース	型紙
タッピングビス × 4コ	ワッシャ × 4コ	防水パッキン × 2コ	

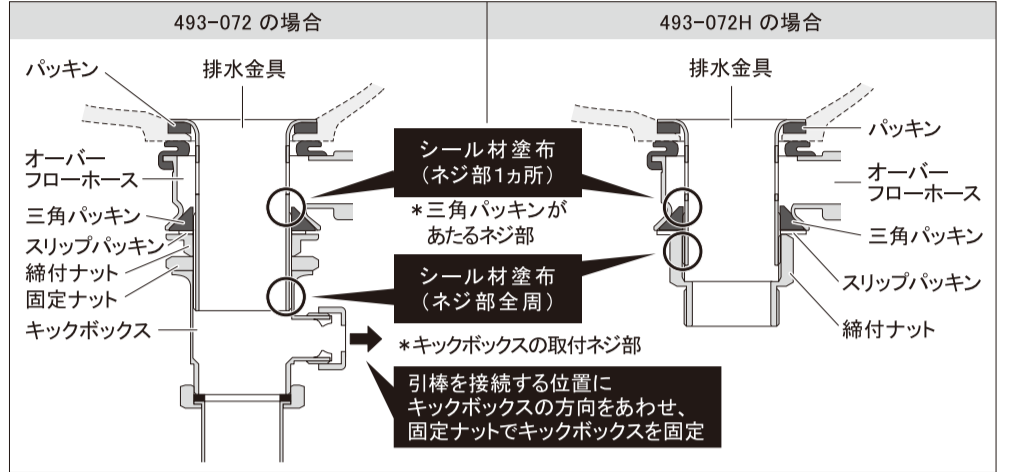
493-072	493-072H
排水金具セット	排水金具セット(ワイヤー式)
キック棒	

取付方法

1. 排水上部を取付けます。



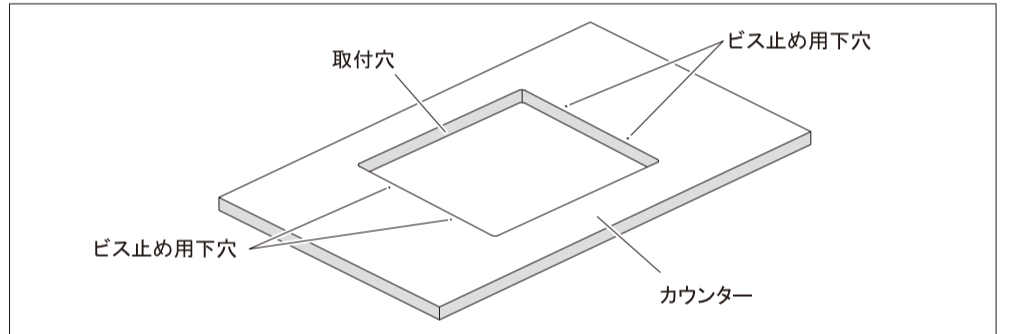
- ① オーバーフロー穴と排水口にオーバーフローホースをあわせませす。
- ② ゴムパッキンがついていることを確認してからオーバーフロー穴にオーバーフローキャップをねじ込み、オーバーフローホースをしっかりと固定します。



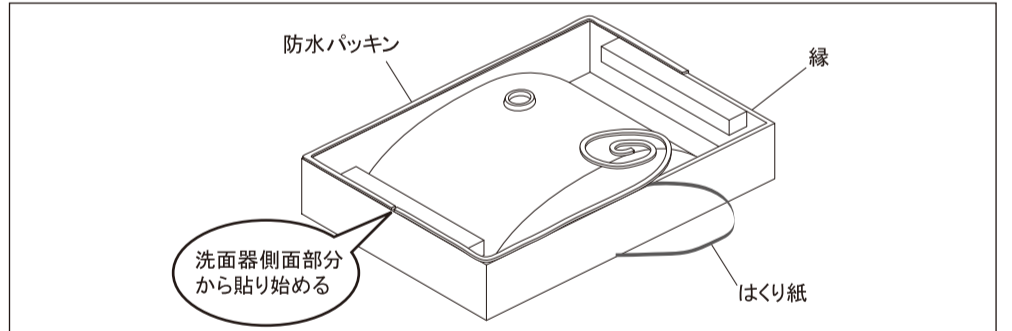
- ③ 排水口の裏からオーバーフローホースをあわせ、排水金具でしっかりと固定します。

- 注意**
- 排水金具取付けの際は、漏水を防止するため、必ず指定位置に、シリコンコーキング等のシール材を塗布してください。
 - 締付ナットは、器の破損を防止するため、ゴムパッキンの弾性を失わない程度に締付けてください。
 - キックボックスを締付ける際は、キック棒を持って締付けないでください。キック棒のパッキン部に無理な力がかかり漏水する恐れがあります。

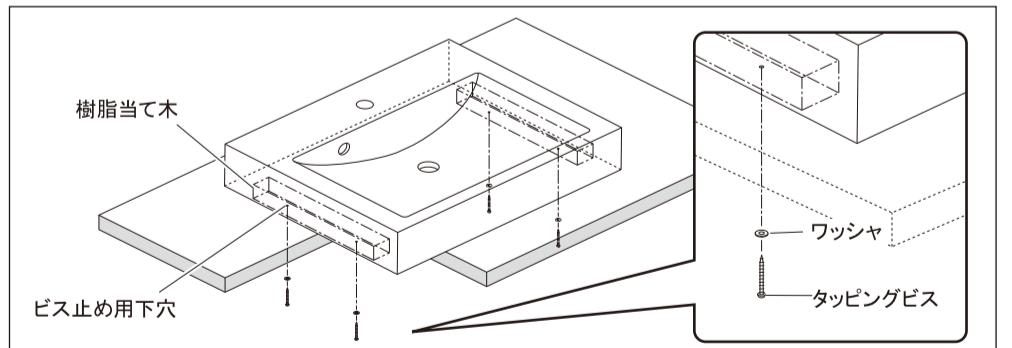
2. 器を取付けます。



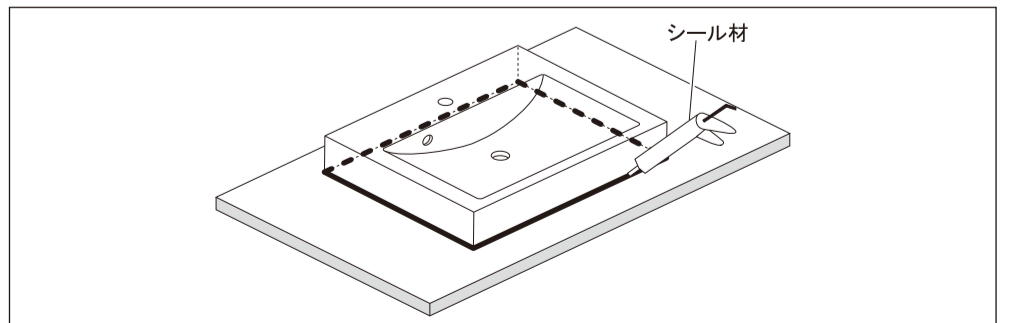
- ① 器を取付けるカウンターに指定の取付穴を開けます。
* 取付穴は同梱の型紙をご参照ください。



- ② 器裏面の縁部分に、防水パッキンを貼付けます。
* 防水パッキンは器の側面部分から貼り始めてください。
* 防水パッキンは伸びやすい素材です。はくり紙を少しずつはがし、伸びないように注意しながら貼ってください。



- ③ 器裏面の当て木が①で開けたビス止め用下穴に重なるように注意しながら、器をカウンターに設置します。
- ④ カウンター裏側からワッシャ・タッピングビス(4X40)でしっかりと固定します。



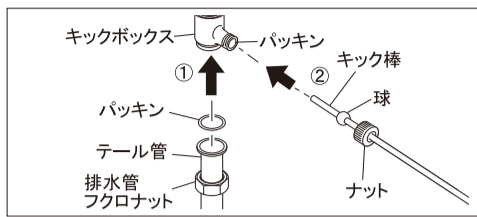
- ⑤ 器とカウンターのすきま(境界)に、シリコンコーキングなどのシール材を充てんし、きれいに仕上げます。

取付方法(つづき)

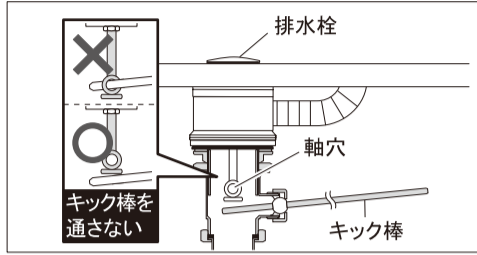
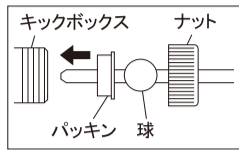
* 3.~6. は品番により施工手順が異なります。

493-072の場合

3. 排水金具を取付けます。



- ①キックボックスにテール管を組付けます。
- ②キックボックスに、パッキン・キック棒(球)・ナットの順に組付けます。
* 右図を参考に、キック棒の操作がかたくなりすぎない程度にしっかりと締付けてください。

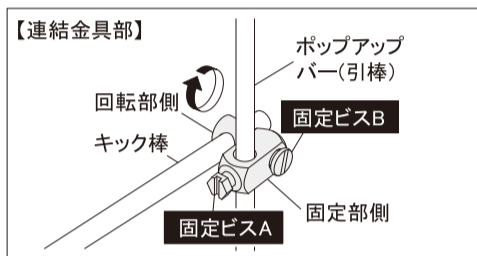


- ③排水栓を器の排水口に置きます。
* 排水栓の軸穴にキック棒を通さないでください。

4. 水栓金具(別売)を取付けます。

* 詳細は器具の説明書をご参照ください。

5. 連結金具を接続します。



- ①キック棒を下げた状態で、連結金具の固定ビスAを締付け、引棒に固定します。
* 円滑に作動しない場合は連結金具の固定位置で微調整してください。
* 引棒が、水栓金具・給水ホース・排水管などに干渉しない位置で作動するかご確認ください。
- ②調整後、固定ビスA・Bをしっかりと締付けます。

6. 排水トラップ(別売)を取付けます。

* 詳細は器具の説明書をご参照ください。



施工後の確認が完了するまでは、水栓金具を吐水させたりしたままその場を離れないでください。漏水により家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工後の確認

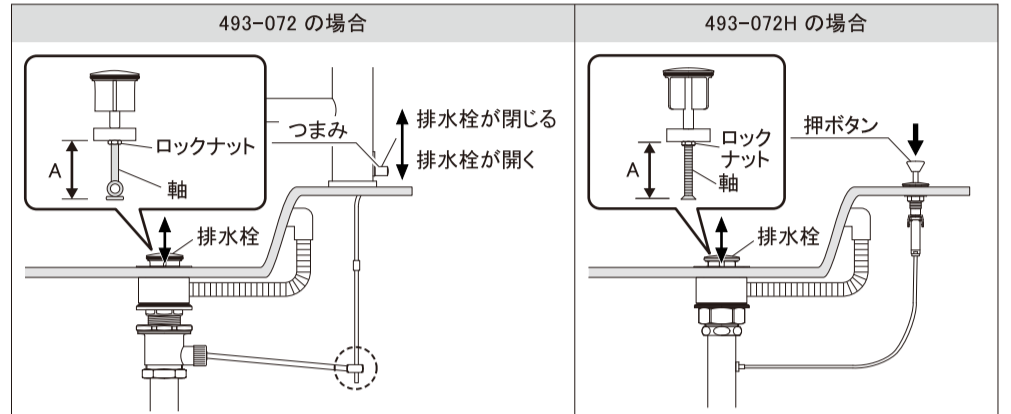
* 施工後は、止水栓または元栓を開いて通水し、必ず下記確認をしてください。

- ①器の取付状態の確認
ガタつきがないか確認をします。
- ②水栓の吐水量の確認、および調整
水栓を吐水させ適正な吐水量であるか確認をします。
* 水ハネが激しい場合は、止水栓を絞ってください。
* 排水栓を閉じた状態で、吐水量がオーバーフロー穴の排水能力を上回る(あふれる)場合は、適正水量になるまで止水栓を絞ってください。
- ③水もれ・排水の確認
通水・排水経路の接続各部に水もれがないか、排水がスムーズに行われるか確認をします。
* 詳細は、各器具の説明書をご参照ください。



メンテナンス等で止水栓を閉じ、再び開く場合等は、水栓の吐水量の確認および調整を必ず行ってください。(施工後の確認 ②)

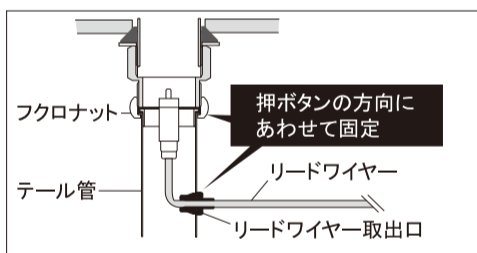
排水栓の確認



- ①つまみ、または押ボタンを操作し、排水栓の開閉を確認します。
- ②排水栓の開閉状態にあわせて、ロックナットをゆるめて軸の長さを調整します。長さが決まったら、ロックナットをしっかりと締付けて固定してください。
* つまみを引く、または押ボタンを押した際に、排水栓が閉じない場合はA寸法を短くしてください。
* つまみを押す、または押ボタンを押した際に、排水栓の開きが少ない場合は、A寸法を長くしてください。
- ③器に水をためてから排水し、各部から水もれがないか確認します。
* 水もれがある場合は、その箇所を施工し直してください。

493-072Hの場合

3. 排水金具を取付けます。

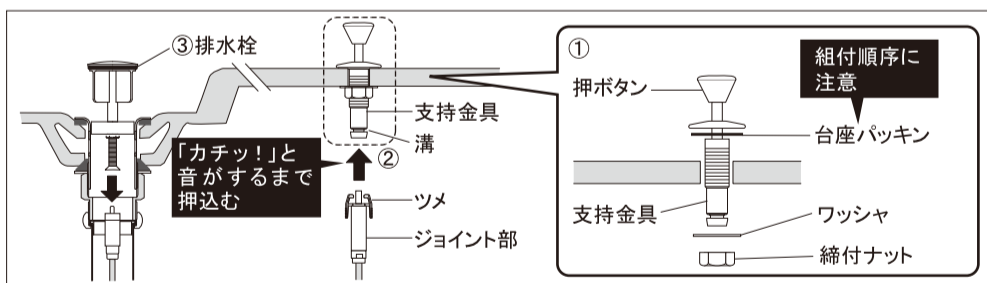


- ①テール管のワイヤー取出口を押ボタンの方向にあわせ、フクロナットを締付けて固定します。



- リードワイヤーは、引張ったり、ねじったり、折曲げたりしないでください。
- リードワイヤーに物を引掛けたりしないでください。

4. 押ボタンを接続します。



- ①押ボタンを取付けます。
- ②リードワイヤーのジョイント部を押ボタンの支持金具に「カチッ!」と音がするまで押し込みます。(支持金具の溝にジョイント部のツメが引掛かります。)
* ジョイント部を軽く引張り、抜けないことをご確認ください。
- ③排水栓をセットします。

5. 水栓金具(別売)を取付けます。

* 詳細は器具の説明書をご参照ください。

6. 排水トラップ(別売)を取付けます。

* 詳細は器具の説明書をご参照ください。



施工後の確認が完了するまでは、水栓金具を吐水させたりしたままその場を離れないでください。漏水により家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。